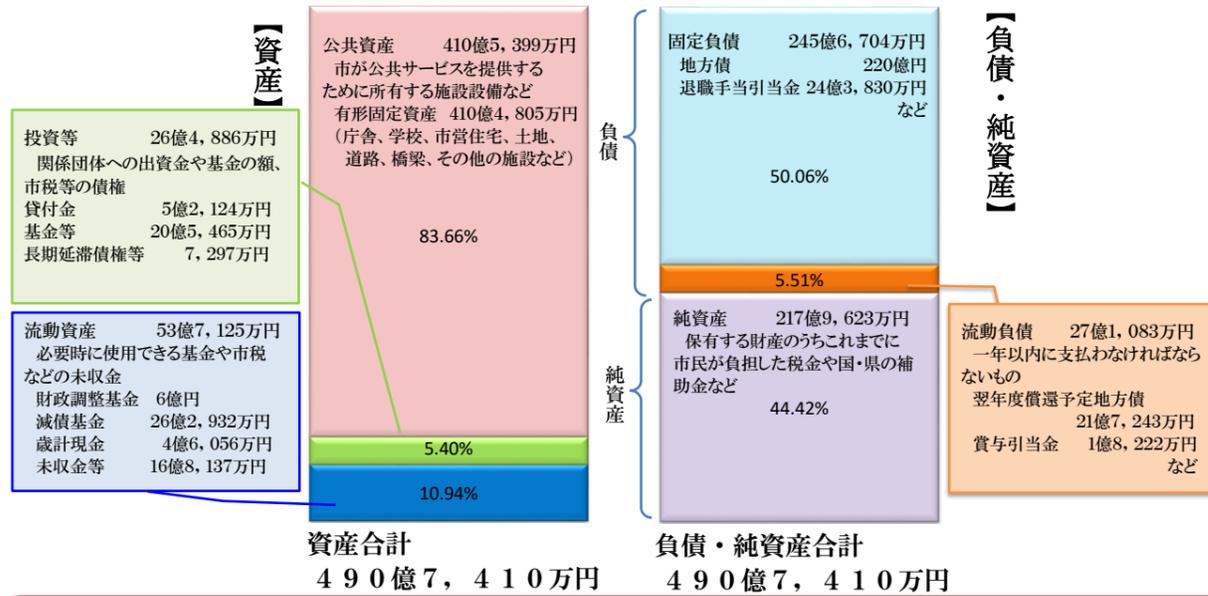


人吉市財務諸表について

令和3年度普通会計 貸借対照表

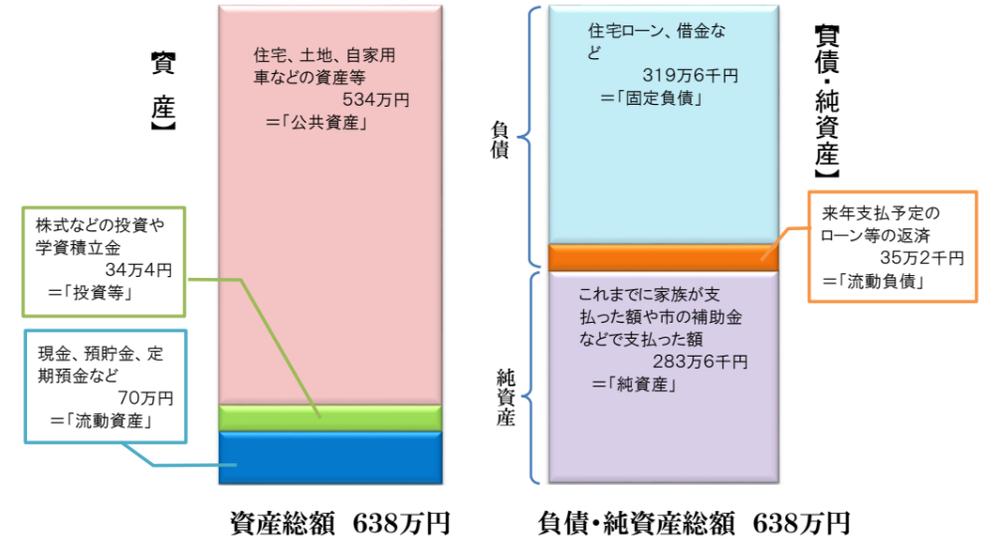
貸借対照表とは…
市がどのような財産を持ち、その財産を所有するためにかかった費用を表したものです。
そのため、「資産」＝「負債」＋「純資産」という関係式が成り立ちます。



* 人吉市の貸借対照表を1世帯（4人家族）に換算すると…

1世帯（4人家族）の 貸借対照表

令和4年3月31日時点の住民基本台帳人口(30,763人)で1人当たり換算した額をもとに算出しました。



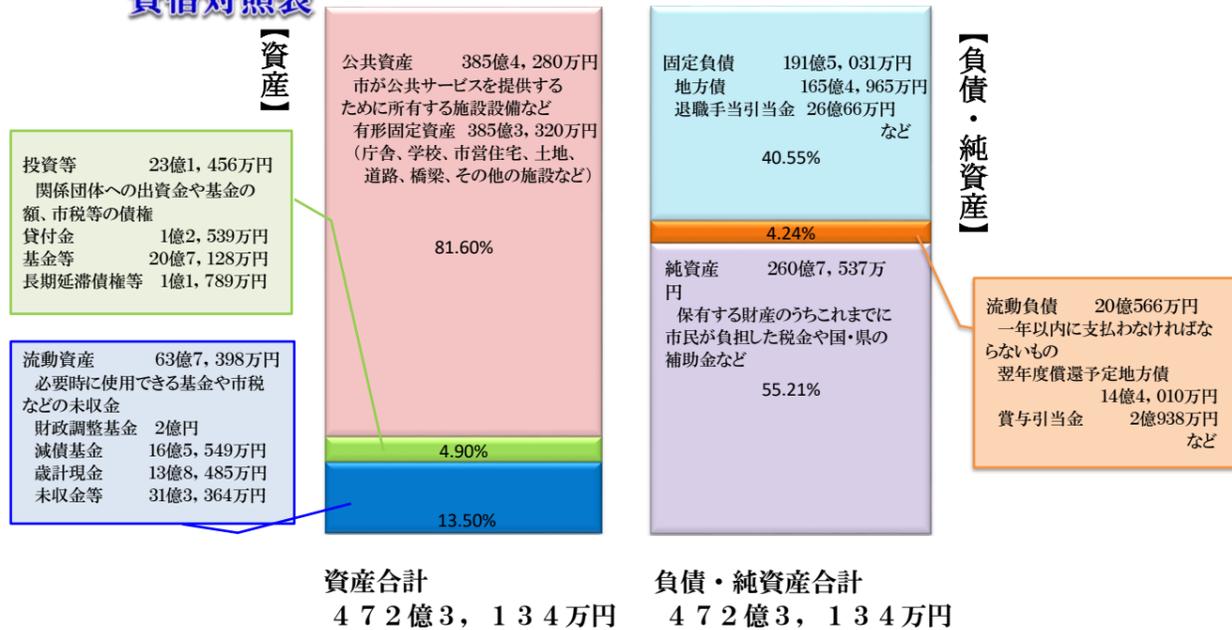
上記の貸借対照表から見えることは、資産では庁舎や学校などの公共資産が80%以上を占めており、また、新市庁舎が完成したことにより前年度から比べると有形固定資産が約25億円の増となっています。負債・純資産では純資産が45%程度であり、こちらも新市庁舎建設事業の地方債借入の影響により、固定負債（＝将来世代への負担）が前年度より増加しています。流動資産は、前年度と比べ約10億円の減となっていますが、前年度が令和2年7月豪雨の発災年度であったため、一時的な歳計現金、未収金の増があっている影響で、前年比では減となっているものです。そのような中でも、財政調整基金や減債基金へ積み立てを行い、復興事業や後年の起債償還の財源確保に努めたところです。負債でも令和2年7月豪雨に伴う各施設の災害復旧事業や災害廃棄物処理事業等による起債の借り入れ、さらには新市庁舎完成による起債の借り入れを行い、固定負債において地方債が約54億5千万円の増となり、固定負債全体でも約54億1千万円の増となっています。

人吉市では、上記の表にあるように有形固定資産が全体の80%以上を占め、公共施設の老朽化による改修や維持については大きな費用が必要となり今後の課題でもあります。また扶助費など経常的な経費の増に加え、令和2年7月豪雨からの復旧・復興が急務となっており、特に復興事業においては市単独での多額の財政負担が懸念されます。公共施設の改修等はその施設の純廃合も含めた今後の活用を十分に検討し、財源である地方債も交付税措置のある地方債に限定するなど活用には慎重に行う必要があるとともに、令和2年7月豪雨からの復興を止めることのないよう財源をねん出するため、令和元年度

令和3年度は前年度と比較すると総額で32万円の増となっており、現金や預貯金は11万6千円の減となっていますが、保有する資産は新市庁舎の完成により、約40万円の増となっており、全体的な規模が大きくなっています。なお、理由としては、左記の表の資産が増えたことに加え人口減少により一人あたりの資産が増えたことが挙げられます。

一方でローン返済等の負債が増加していますので、将来に向けて不安が残ります。新たな資産の購入等へ回せる余裕がなく、少しでも現金預金を増やすよう、節約が必要な状況です。また、資金調達のために借金をするとしても来年度の支払いなども含めて将来を見据えた計画が必要といえます。

令和2年度普通会計 貸借対照表



1世帯（4人家族）の 貸借対照表

令和3年3月31日時点人口
31,176人

